

ニュースレター 10月

2022. 10. 1 発行



今月は、収納リフォームで失敗ワースト5！こんなプランに注意をお届けします



HPのお問合せはこちらから

収納リフォームは、モノを「仕舞う場所」を作ろうとすると失敗してしまいます。目的は仕舞い込むことではなく、使いやすい置き場を確保すること。仕舞う＝二度と使わないでは、ただの死蔵品置き場になってしまいます。そこで、もしかしてうちにもある？よく見かける収納リフォームの失敗プランを、ワースト5にまとめました。失敗を防ぎ、成功するためのアイデアもご紹介しましたので、計画前にぜひチェックしてみてください。

1、扉の選び方が悪いプランは、後で悔やむことに〈収納リフォームの失敗-5位〉



収納リフォームでの失敗、ワースト5の第5位は、扉の選び方が悪いプランです。しまうモノ、開閉する姿勢、収納前の面積によって使いやすい扉の形は異なります。

狭くてベッドでいっぱいの寝室や、キッチンの通路側の収納に観音開きの扉を付けてしまえば、扉が身体やベッドにぶつかり開ききらなかったり、開閉するたびに身体をねじる必要があったりと、使い難い失敗収納になります。

狭い場所なら開閉しやすく通行のジャマにならない引き戸を選ぶ、フルオープンして中を見渡したいなら折れ戸を選ぶなど、適材適所の扉選びでプランを立てることが使いやすい収納にするポイントです。

特に通路幅が狭いキッチンでは、収納の扉を開け放したまま作業ができるよう、**引き戸**にしておくといいでしょう。観音扉にするなら、扉幅を細くするなど、開けた時にジャマにならないようにしておきましょう。また地震時に中身が飛び出さないよう、**耐震ラッチ**で対策しておくことも忘れずに。

注意したいのが扉が無い「見せる収納」です。見せる収納はおしゃれですが、中に入れるモノを厳選する必要があり、またこまめな整理整頓と掃除が必須です。特にキッチンの場合、調理の際に出る油煙で、表に出ているモノがベタつきやすいので、できるだけ扉を付けておくことをお勧めします。

2、アクション数が多いプランは、家事ストレスの元に〈収納リフォームの失敗-4位〉



収納リフォームでの失敗ワースト5の第4位は、アクション数が多いプランです。アクション数とは、中にあるモノを出し入れする手間の数のことで、扉を開けるだけなら1アクション、その中に引き出しがあれば2アクションになります。

例えばキッチンで、毎日の使用頻度が高い「おたま」を、扉の中に設置されたスライド式の引き出しトレイに入れると

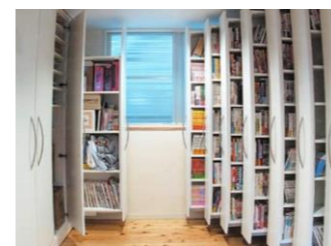
1. キッチンの収納扉を開ける
2. 引き出しトレイを引き出す
3. お玉を取り出す
4. 引き出しトレイを押し込む
5. キッチンの収納扉を閉める

キッチンで毎日よく使うモノなのにもかかわらず、取り出すだけでこれだけのアクション数が必要になります。これでは家事の手間は倍増し、家事ストレスが溜まってしまいます。

また、おしゃれに見せるために、ビンに詰めて引き出しに入れて、それをまた扉で覆うといったような収納プランにも注意が必要です。こまめな人ならまだしも、そうでない人にはかなりの手間になることを覚悟する必要があります。

キッチンの収納リフォームの際には、品目ごとのアクション数の確認を忘れずしておくことが失敗を防ぐコツ。使用頻度の高いモノは、できるだけ1アクションで出し入れできるようにしておきましょう。上手に活用したいのが、観音開きの扉の裏面です。扉裏にフックを付けて、鍵や爪切りなど細かい物にチェーンを付けてつり下げておくと、出し入れが楽だけでなく、行方不明になることが減ります。良い収納とは見つけやすく、出し入れがしやすい収納のこと、様々なアイデアで毎日の動きがスムーズになるよう工夫しましょう。

3、奥行きが合わないプランは、死蔵品を生み出す〈収納リフォームの失敗-3位〉



収納リフォームでの失敗ワースト第3位は、奥行きが合わないプランです。奥行きが深い収納に小さなモノを詰め込めば、奥にあるモノは見えなくなり、探すのは大変、出し入れも大変、だんだん手前にあるモノしか使わなくなっていきます。

食品庫の中でいつの間にか賞味期限が切れているのも、たいていは奥のほうに埋もれた食品です。**奥行きが合わない収納プランは、死蔵品を生み出す失敗収納なのです。**

このようなことが起きやすいのが、観音扉のキッチンキャビネットと押し入れです。キッチンキャビネットはイマドキは引き出し式が主流となり、奥まで使いやすくなっています。

押し入れは布団などの大物を収納するなら問題無く使えますが、それ以外の小物を収納したい場合は、**中に引き出しセットを組み込むなど、出し入れがしやすい工夫をしておきましょう。**

収納面積を増やそうと、納戸のような奥行きが深い収納庫を作るリフォームプランを見ることがありますが、単に大きな収納庫を作っても、そのままでは死蔵品置き場になるだけです。図面上、収納がたくさんあっても、**奥の方が上手く使えなければ、あまり意味は無いのです。**

奥行きが深い収納庫は、後ろ半分を使いこなすことで収納として蘇ります。むやみに収納面積を増やさなくても、今ある収納にひと工夫して、使える収納に生まれ変わらせましょう。

4、ギュウギュウ詰めプランは、出しっ放しの元〈収納リフォームの失敗-2位〉



収納リフォームでの失敗ワースト第2位は、ギュウギュウ詰めプランです。効率を上げようとスキマなく詰め込むプランは、出しっ放しが増える失敗収納になりがちです。

例えばギッシリと詰め込んだ食器棚、ギュウギュウと衣類を押し込めたクローゼット、どちらも中が見えにくい上に出し入れが大変なので、結局キッチンに積み上げたり、部屋の中に吊るしっ放しになったり。

収納面積の目安は、作り方にもよりますが、床面積の10%以上は欲しいところです。

5、高さが合わないプランは、高い費用を掛けて失敗する〈収納リフォームの失敗-1位〉

収納リフォームでの失敗ワースト5の第1位は、高さが合わないプランです。

キッチンの吊り戸棚や床下収納庫などで高い費用を掛けて死蔵品置き場を作ってしまうことになりかねません。

脚立に乗ったり、低く屈んだりなど、無理な姿勢での出し入れが必要な収納は、「出さナイ・片づけナイ・中身を覚えていナイ」の3ナイ収納になりやすいのです

普段よく使うモノは、自然な動作領域の中を作るようリフォームの計画を立てましょう。

株式会社 渡辺組
本社 海津市海津町高須町720-1
0584-53-0174
リフォーム 海津市海津町馬目371-3 (コーポ日新1F)
0120-202-988
E-mail: info@watanabegumi-kaizu.com
URL: http://www.watanabegumi-kaizu.com/

土 木 建 築 リフォーム

*毎月皆様の暮らしのお役立ち情報をお届けしています。何かお気付きの事や知りたい事などございましたらいつでもご遠慮なくお申し付け下さい。皆様のご意見ご感想を元にお役に立てれば幸いです。